



今様世談句三輯下々巻



坪内

文月 文月や一人中條上来たる紫の庵

栞亭

立秋 杉山紙邊のくまのくまの秋の立

溪舟

名山や秋立のくまのくまの秋

大梅

飯のあたる秋も立くや水うたの

雪堂

今朝秋 うらまのくまのくまのくまの秋

成美

志のあたるくまのくまのくまの秋

一意

岸のあたるくまのくまのくまの秋

左印

くまのくまのくまのくまの秋

大梅

薙

細うすやかきもくくもくふ世に	成美
三舞や人の業うすくくくく	一葉
歌うすやかききききききき	一葉
歌うすやかききききききき	未生
歌うすやかききききききき	一葉
歌うすやかききききききき	大梅
歌うすやかききききききき	源若
歌うすやかききききききき	乾崖
歌うすやかききききききき	大梅
歌うすやかききききききき	久藏

兼鶏頭
女郎花

併くくくくくくくくくくく
 七くくくくくくくくくくく
 首系やくくくくくくくくく

兼鶏頭
 女郎花
 久藏

木槿

木槿くくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくく
 障くくくくくくくくくく
 出くくくくくくくくくく
 三秋のくくくくくくくく
 長風客のくくくくくく
 萱草のくくくくくくく
 菊のくくくくくくくく
 くくくくくくくくくく
 秋のくくくくくくくく

木槿
 源若
 沙路
 干崖
 大梅
 梅
 一葉
 身
 身
 源若

萩

藤袴

細きやまの端の赤帷のふり袴

大掛

西丸

あまのついでに白らやふらうは

久花

露、秋

夜に秋とてふ不期し西丸の自

秋

霧

玉川とてあまの都やあまの秋

一之

得たの海士のうらみとてはるる霧

う布

稻

妻

いふつらや何ゆきをきくうらみ

久城

いふつらや川らきうらみ

大掛

いふつらや相のうらみ

湖山

いふつらや畑のうらみ

掛宝

いふつらや月欠のうらみ

大掛

いふつらや藤のうらみ

後掛

いふつらやまをきくや候藤の掛

後掛

露

いふつらやあまのうらみ

秋

いふつらやあまのうらみ

且

いふつらやあまのうらみ

秋

秋、蝶

出ぬうの産ふつうの秋のふ

秋産

蒼

小屏風や立たるうの秋のふ

秋産

蝨

つらつら葉のうの秋のふ

秋産

湯罏の鉄のうの秋のふ

秋産

秋風

大坂の瓦の地口のうの秋のふ

秋産

秋のや門のうの秋のふ

秋産

ととと五

角

村角力端をうの秋のふ

秋産

人たつ角力そそくちのうの秋のふ

秋産

赤

角力五月のふの秋のふ

秋産

鶴頭

人たつをかみきつる赤のうの秋のふ

秋産

赤のうの秋のふ

秋産

赤のうの秋のふ

秋産

芒

田中申はもくしうの芒うれ
 芒系とくま塩やくわらうれ
 芒うら上はまはう山の中
 とうらわの田もきくある芒うれ
 海へまはる村あふくすまうれ
 芒のまぬもきくわらや芒うれ
 明らうら月と持てく芒うれ
 芒のまぬ人もあきく芒
 うせらあま日の茂候し芒
 穂芒や降るこくはく芒

芒の下の六

尾

甲もまき野もくまの尾系が
 甲せいの尾系とくまうれ
 うまきまうれもふま尾系が

野

三月月のまきとくま尾系が
 級とくまのまきとくま尾系が
 故まきとくまのまきとくま尾系が

紫

紫山寺
 西りと後まきとくま尾系が
 鳴子引人まきとくま尾系が

鳴

鳴子引人まきとくま尾系が
 鳴子引人まきとくま尾系が

梅室 大梅 涼若 必美 人梅 秋崖 清風 解雪 涼若 大梅

掠鳥

掠鳥やち七一本の大根 杏 大梅

山雀

山雀やち七一本の末 大根の末 大梅

鴨

鴨やち七一本の料 大根 大梅

鹿

鹿やち七一本の料 大根 大梅

鹿やち七一本の料 大根 大梅
鹿やち七一本の料 大根 大梅
鹿やち七一本の料 大根 大梅
鹿やち七一本の料 大根 大梅
鹿やち七一本の料 大根 大梅

菊

酒

菊酒のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

菊

菊のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

菊のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

菊のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

菊のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

菊のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

菊のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

菊のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

菊のりや嫁を何〜の〜菊の中 大梅

高女

柿

十三夜もあまふは後かきあか
 清澄な柿ふ久しふりきりか
 日影柿の指やさゆりきり
 け人もちりや赤いふ山あき
 いきまうやまぬうきり新あ山
 雲ともふ修りきりきり新あ山
 雲時るあ月もさうきりきりあ時きり
 露霜あまやまあきりきり状あまきり
 茸狩茸うりやまきりきりああきり
 ねえりりりあ力りりりあああああ

一々
 夕節
 たま
 久光
 一々
 源吉
 公美
 素静
 岩徒
 鬼平

今三下ノ十

名りのりりりああきりきりきり
 菊のあやあきりきりきりきり
 こ階りりりりああきりきりきり
 落つりりりりああきりきりきり
 風の下りりりりああきりきりきり
 りりりりりりああきりきりきり
 編ありりりりああきりきりきり
 物ありりりりああきりきりきり
 やうりりりりああきりきりきり
 葉のりりりりああきりきりきり

半水
 素道
 木盛
 四月
 初高
 捨内
 秋雄
 眠席
 杉島

神のてしつ流つるまきのけしつうれ 招き
 草の葉のひまはるる 糸のうれ
 秋のまや春のまよふるる 流るる 月桂
 やまのてしつ流つるまきのけしつうれ 樗曲
 りしつをたふらふるるまきのけしつうれ 三つ通
 菊のまよふるるまきのけしつうれ 水
 ろまよふるるまきのけしつうれ 龜六
 廿二のまよふるるまきのけしつうれ 岩窟
 ゆるるまよふるるまきのけしつうれ 一巻
 まよふるるまきのけしつうれ 四仙

三下

門のまよふるるまきのけしつうれ 二洞
 湯のまよふるるまきのけしつうれ 三人
 三つりるるまきのけしつうれ 退去
 吹のまよふるるまきのけしつうれ 湖
 朝のまよふるるまきのけしつうれ 嘉川
 櫻のまよふるるまきのけしつうれ 未覚
 月のまよふるるまきのけしつうれ 子利
 春のまよふるるまきのけしつうれ 松月
 秋のまよふるるまきのけしつうれ 水 市見

大瀬中 照よきとくくく相一葉 田月
 多由ちよとをのうきくくくく川 万利
 麻吹や木のうらふきく赤きく丹 子鳥
 跡の路きくくくくくくくく名 名足
 昔の教よきくくくくくくくく叶 一
 くくくくくくくくくくくくくく 万化
 たるくくくくくくくくくくくくく 名足
 立候くくくくくくくくくくくくく 一葉
 昔の年や月日のくくくくくくくく 一
 引くくくくくくくくくくくくくく 一葉

御はあうくくくくくくくくくく 万海
 くらくくくくくくくくくくくくく 史を新
 くくくくくくくくくくくくくく 名酒
 くくくくくくくくくくくくくく 雪真
 くくくくくくくくくくくくくく 名鼓
 くくくくくくくくくくくくくく 善歌
 くくくくくくくくくくくくくく 観之
 坊くくくくくくくくくくくくく 名報
 結りくくくくくくくくくくくく 一
 何くくくくくくくくくくくくく 玉網

七夕の一杵を玉のり玉のひび
堀くふ程のすくすくちり一葉
松多
蒼る

朝なや高岸の鶴をこころし
奇洞

水くまの枝をよめらやおかし
一月

冬のかげやおのり五六方
常陸池

あしづふまのやほのり人さ
松球

雪のちりりや舟をたもつやら
井原

庭のまきまきひるふれは枝
紫原

枝くまの 枝のほろも
丹三

啼ついで人さるはせんあま乃れ
一鹿

みの虫のほらちあやや枝のさ
一車

抱てあるあまのさくさくや
一笑

と晴るあまの客はるもさくさく
田丸

人さえて坂の軒や合歌あまふ
鶴斎

うかれや虫よすはほの葉の櫻
曼綿

アツくせうふちりりあやの中
東歩

さつさつさくさくはほのさき
太田

戸をたてあまを割つやあまのさ
鶴斎

り枝のあやゆきさくさく
杞菊

まのさやさくさく細もさくさく
如風

三井のこゝ消へてあつたや志の丸 長千葎
 戸ぬれは雪のやまをうらちるすまき 船秋
 青のまもともしー山渡り戸のま 杉磯
 志葉と道や幸お深の上のうと結 志成
 藤崎のやの所とくぬ山の藤 今
 堀ろーと袖とそと厚のや浪岡も 晴牛
 うひまうぬ里の藤枝のあまふ 共好
 ちとらとーとあのかくれや若もま 山雪
 つぼと結とあの本園とまー 空掃
 やまふをまうとまふや菊の如 古番
 と秋のやついと結とるま乃 香

鯉のこゝ消へてあつたや志の丸 長千葎
 戸ぬれは雪のやまをうらちるすまき 船秋
 青のまもともしー山渡り戸のま 杉磯
 志葉と道や幸お深の上のうと結 志成
 藤崎のやの所とくぬ山の藤 今
 堀ろーと袖とそと厚のや浪岡も 晴牛
 うひまうぬ里の藤枝のあまふ 共好
 ちとらとーとあのかくれや若もま 山雪
 つぼと結とあの本園とまー 空掃
 やまふをまうとまふや菊の如 古番
 と秋のやついと結とるま乃 香

ととととと魚撲る月の戸り
菖のきひとむや乃ききみ

猿枝
赤糸

おろそろそとまゝなるとや后の月
ふたふたもきよふとふた妙れ
山をよめよとまゝとまゝとら
浮勝と物とまゝとまゝとら
事の根や二見の心とまゝとら
あゝあゝとまゝとまゝとら
持たぬとまゝとまゝとら

喜悲
卓池
杜鰲
栗丸
良化
井筒
松糸

三下二十五

今様發句三輯又々

題混雜

十月や牛子片たりぬま杉を
こころもまよふとまゝとら
想出すあまりの懐て時るりの
引あゝとまゝとまゝとら
あゝとまゝとまゝとら
着るを蹴る埃りの中やゆり
梧吹てまゝとまゝとら
田の中とらとらとらとら
尻かゝる男やとらとら

桂車
風雲
猿枝
君竹
一鹿
良化
時如
彌矣

今年上池引のや 帰るるを
くもすくたぬや 梅や 梅
吉成子孫 子もきて 吾見ん
は條どくくるや ありくらの
貝壳のされて 石や 梅
持るり 細く びつ、く
こかりや 荒の 自と かく
涼白の中 子も あり
そら 吉成 子も きて
留しつ 吉成 の 子も きて
一時うの 吉成 の 子も きて

田丸
石精
来兵
猿枝
良化
一荒
君伴
其好
紫香
鶴翁
星瑞

五三十一六

と 時と 面と 指塚 あり
風や 吹く 梅の 影 月
猿抱て 梅の 影 梅
又 あり 梅の 影 梅
中 あり 梅の 影 梅
井 あり 梅の 影 梅
と あり 梅の 影 梅
お あり 梅の 影 梅
時 あり 梅の 影 梅
と あり 梅の 影 梅
と あり 梅の 影 梅

長年
梅雅
松金
和子
芦竹
田丸
石精
来兵
一荒
吉成

甘茶の味を始ぬまほしくゆくのすけ
新りのりしきききききききききき

秀庄
既丸

大根川 志賀と人きききききききき

葵丸

ほくちきをえんきききききききききき

松巻

きききききききききききききききき

栗丸

おきききききききききききききききき

奇淵
一肖
井舟

七三下二十八

とちくききききききききききききききき

丸茶

海の月もかけある氷うけ

結高

隅をひききききききききききききききき

星掃

すきききききききききききききききき

田丸

きききききききききききききききき

君舟

きききききききききききききききき

松舎

きききききききききききききききき

接枝

きききききききききききききききき

風巻

きききききききききききききききき

松丸
月舟
馬牛

神留主

意のむ津の清多きとてうらやまう

成美

玄措

志を續く佛を神の清多きとて
静まると親世の中ありとて 徳を利

一蕙

芭蕉忌

新とてうらやまのしとてうらやまを
うらやまのしとてうらやまを

大梅

うらやまのしとてうらやまを

管笠

うらやまのしとてうらやまを

秋産

十夜

岩つとてけや十夜の人をそく

管笠

そくそく不精うけとてうらやまを

梅若

一日をいへとてうらやまを

大梅

うらやまのしとてうらやまを

とや女

今三下三十二

初時雨

中の戸ふふ綿とてうらやまを

雲雨

二日月のしとてうらやまを

梅室

時雨

志とてうらやまのしとてうらやまを

大梅

志のしとてうらやまのしとてうらやまを

雲雨

志とてうらやまのしとてうらやまを

一蕙

早あまふ法所持とてうらやまを

雲雨

日の名やうらやまのしとてうらやまを

茶枕

おやのしとてうらやまのしとてうらやまを

後知

うらやまのしとてうらやまを

一蕙

初時雨のしとてうらやまを

雲雨

初雪

初雪の底ふ歩りうらむる
 初雪や先清渡のすのり木
 初雪やいづるまてる精を日
 初雪ふらふく星のゆふい
 今ふまふらふく皮相の落葉や
 空谷のうらむ花の戸の落葉や
 初雪のすくすく掃を掃く落葉や
 木葉好くあふらふく松の月
 星の初雪ふらふくおもしろ
 空の初雪ふらふく木葉うらむ

古梅
 涼谷
 空の
 秋崖
 梅家
 久城
 梅家
 一々
 後和

今三下三十三

風

風うらむる昔の中の水の川
 風うらむる籠口の中の水の力
 風うらむる空鷹のうらむる人の
 風うらむる山の水掃
 風うらむる春ふらふく木
 風うらむる和掃の中の水の結
 風うらむる沼の中の水の木立
 風うらむる枯の中の水の庫
 風うらむる中の中の水の庫

一々
 う布
 風や
 梅家
 一々
 輝古
 一々
 道古
 多女
 一々

冬木立
冬枯

枯柳

枯柳ぬねもささげささげささげ
新穂ふ枯れぬささげささげささげ
うきうき後まの久しきささげささげ
赤く枯れぬささげささげささげ

左節

苦菜

貞素

一節

枯芒

月さすや海底の中枯れぬ
さすや海底の中枯れぬ
枯れぬささげささげささげ
糸の毛ふさげささげささげ

左節

相見

左節

枯尾花

糸の毛ふさげささげささげ
細くささげささげささげ
ささげささげささげささげ

う節

一節

枯崖

枯蓮

今三下三十四

大根曳

舟人のささげささげささげ
舟人のささげささげささげ
舟人のささげささげささげ

左節

杜若

左節

干菜

干菜汁のささげささげささげ
干菜汁のささげささげささげ
干菜汁のささげささげささげ

左節

秋崖

左節

枯野

野のささげささげささげ
野のささげささげささげ
野のささげささげささげ
野のささげささげささげ
野のささげささげささげ
野のささげささげささげ
野のささげささげささげ
野のささげささげささげ

左節

後池

左節

十節

左節

歸花

夕のやち花ゆふまゝ男よ 糸
御交まわりのまはたうくう糸
仰白まきらういそまはゆり糸
ゆきまきらういそまはゆり糸
指し一糸あふらうぬくく糸
百者うや新らゆいそまはゆり糸
くの母まきらういそまはゆり糸
母らういそまきらのまはた批把の糸
糸あふまわりの糸あふのまはた批把
早の糸あふのまはた批把

源谷

糸團

大指

平良

源谷

一々

早后

久減

榮光

後物

茶花

批把花

千鳥

糸あふまわりの糸あふのまはた批
糸あふまわりの糸あふのまはた批
うらまはまきらういそまはゆり糸
糸あふまわりの糸あふのまはた批
うらまはまきらういそまはゆり糸
糸あふまわりの糸あふのまはた批
うらまはまきらういそまはゆり糸
糸あふまわりの糸あふのまはた批
うらまはまきらういそまはゆり糸
糸あふまわりの糸あふのまはた批
うらまはまきらういそまはゆり糸
糸あふまわりの糸あふのまはた批
うらまはまきらういそまはゆり糸
糸あふまわりの糸あふのまはた批
うらまはまきらういそまはゆり糸

秋産

友像

一々

妹智

古節

多妻

氣美

大指

源谷

菊女

雲

糸掛く牛さうや守やふくしんれ
中実かちあうくふらうた

葉静

霰

落くまの外さけさきお松暗
玉をたあそふを結く抱り

大梅

冬、雨

清きく雪申物と多きり
枯葉さへちぬ松あやまらる

久藏

茶食

きりりゆいさうと下ささうのや
源山末さうらふと茶さうい

涼谷

今三下三十九

水仙

水仙ふすく大の巖乃うくさうり
系さうちんれさ水仙旅り

三月

多他や日かさく入る松あさふ

素御

多他や系さうさうひたさう南
多他や系さうさうひたさう南

名鑑

冬、毒

一むくふ峰さまけさうあさうあ
つさふもさふらさうのささ毒

一葉

寒、毒

字さ毒口日かさうささうあ中
級好や草ささうさう末履これ

後お

鯉

結さうぬくせさうのと燦さうり

玉河

寒

ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
正月とふくふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ

天若
後相
岩鏡
凍若
一葉
凍若
う布
成美
松侯

全三下四十

節季候

ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ

松侯
一葉
成美
う布
凍若
一葉
凍若
う布
成美
松侯

師走

年市

春近

ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ
ふくけり書といふものふくもはれ

松侯
一葉
成美
う布
凍若
一葉
凍若
う布
成美
松侯

年暮 年の暮るに年もくくは 福田川 成天
 年真 賽銭の事ありやと あり 多節
 年一夜 仏の持てをよと 一夜 多女
 除夜鐘 けしきありとく人もちり 除夜の鐘 清風
 年ノ宿 けしきありとく人もちり 除夜の鐘 涼若
 追 儼 灯や白直儼とくく 書たりとみ 後如
 往連總 けしきありとく人もちり 白ふ大年日 多節

今様 後句三輯 下と終

今三下四十一

浪華書舗岡田種玉堂藏版書目

神代卷

全二冊

同 頭書

全二冊

同 正訓

稿本 拙彦著 近刻

全三冊

神代紀 葦芽

本居大人校正

全六冊

校正古語拾遺

齋部廣成著

全一冊

古語拾遺言餘鈔

全五冊

古語拾遺ト云ハ神代以後神社祭事等
古法ヲトリウレナヒレ事ドモヲ記セル
書ナリ 其本書ニウタガハレキモノヲ明辨
誤釈シテサトシタルヲ言餘鈔ト云

古語拾遺句解

全二冊

天の真柱

全一冊

外國ニアラユル天地ノ説ヲ皇國ノ古傳説
ニ考合セタル書ニテ神代考ト共ニテラレ
見ル古学ノ基マタ他ニ出ルナレ

古語拾遺示蒙節解

全四冊

冠辭考

賀茂真淵大人著

全十冊

此書ハ和歌の枕詞を和る五十音に
次第して位叙を

同

續貂

上田秋成大人著

全七冊

冠辭考ハこれよりとありぬ位叙と加へ

掌中冠辭例

全一冊

右の二書より要語と抜粋して考へ

紫式部日記謗註

壺井義知著

全二冊

此書ハ紫式部の美園毎日がけりぬの
圖と和りておまのかりて位叙と加へ

枕詞補註

尾崎雅嘉大人著

全二冊

此書ハ枕詞のより用いぬもの
もの内より近辭より枕詞を
はらひてえり出りぬはこれに
より要く位叙と加へ

和歌虚詞考

加藤景範著

全二冊

增補和歌明題部類

小本

全二冊

同 續

小本

全一冊

增補和歌組題集

合刻小本

全二冊

名所部類考

日本紀の御局考

松の屋大人著

全一冊

紫式部と日本紀の御局といふ
のさへ源氏物語のさへ

紫女七論

安藤為章先著

全一冊

源氏新釋摠考

賀茂真淵大人著

全一冊

此二書ハ源氏物語の大まことの
式部の身内所考を
と出り源氏物語の
よむ人のためと位叙を

枕草紙傍註

全十冊

松の屋文集

藤井大人著

全二冊

古今類句

山本春正著

全三十四冊

廿一代集と和歌集の類句
目の取まといはるはこれに
より探考の空を

國意考

賀茂真淵翁著

全一冊

皇國古今のついでに
と信海を論破同世に
と出り源氏物語の
よむ人のためと位叙を

古來風體鈔

全五冊

此書ハ五條三位後醍醐
文の取まといはるはこれに
より古來の風體を

おんまゝしゝ鴈

松の屋藤井大入著

全一冊

月次結音の消息文ありてうらたの
せうきとせうきいへりてまぶる係
うらたのうらたのうらたなり

佐喜艸

右同著

全一冊

あはれとせうきの得うらたを清くわらわ
かたやうはうらたのうらたなり

消息文例

右同著

全二冊

せうきとせうきいへりてまぶる係
河のせうきとせうきいへりてまぶる係
うらたのうらたのうらたなり
うらたのうらたのうらたなり
うらたのうらたのうらたなり

萬葉集類葉抄

村上潔夫輯

小本全二冊

萬葉集のうらたのうらたのうらたなり
万葉集のうらたのうらたのうらたなり
万葉集のうらたのうらたのうらたなり

同 類聚抄

右同撰

全二冊

類聚抄のうらたのうらたのうらたなり
類聚抄のうらたのうらたのうらたなり
類聚抄のうらたのうらたのうらたなり

同 二聖集

石津亮澄著

全一冊

万葉集のうらたのうらたのうらたなり
万葉集のうらたのうらたのうらたなり
万葉集のうらたのうらたのうらたなり

類題名家發句集

全四冊

方丈記流水抄

鴨長明

全二冊

古今俳諧明題集

涼帝子撰

全五冊

俳諧今様發句集

八日菴卧鵬輯
小本全二冊

今時法名家のうらたのうらたのうらたなり
今時法名家のうらたのうらたのうらたなり
今時法名家のうらたのうらたのうらたなり

同 二 篇

全二冊

同 三 篇

全二冊

同 四 篇

近刻 全二冊

両吟集

梅室八十房
花屋菴

全二冊

無名抄

鴨長明

全二冊

俳諧四季併題櫻苗

花屋菴奇淵撰

全二冊

樗良十部集

全二冊

道彦七部集

全二冊

俳諧花實發句集

長月菴編

全五冊

此集はわらわのうらたのうらたのうらたなり
此集はわらわのうらたのうらたのうらたなり
此集はわらわのうらたのうらたのうらたなり

俳諧心くろ喰

全二冊

此書ハ貞徳鬼貫其角鼠雪と初め
法園了名の宗匠家の後句五千餘
句と題題あり初句他の又合せ
出凡九句較多なり此書小徳家の
同

同 十家類題集

全五冊

八千房宗匠編輯して故人芭蕉翁
初め其角鼠雪と宗匠家林言水法園
春山希因等村木十家の後句集なり

同 新十家發句集

全四冊

宗匠翁して月居荅丸成文を宗匠
升六も例して三権博士朗吟を十家乃
高の海り仲の發句とらるる書也

發句新五子稿

全二冊

此書ハ太抵世村青狂曉子法園文家
の發句とらるる題題ありて集む

俳諧發句題葉集

小本 全五冊

黄元菴升六著四巻の後句と十二月より
自序の句と題題あり初め六種紙歌
迷懐送る畫發句と等げ三巻及法園
高名家の句とらるる撰び也

同 近世發句類題集

全四冊

此書ハ尚の近世名家の發句とらるる
ありて四巻の句の題題あり初め
と世流り發句の風体改るる
此書小徳家の

俳諧今様發句集

八日菴万和輯 小本全二冊

今時流名家の句とらるる初め
句とらるる撰び也

古文眞寶後集

筱崎先生頭書評註 新刻 全二冊

同 無点再版

全二冊

古註 大成四書字引

小本 全一冊

四書字引アマアリトイハ古註新註
ノセシサク委シキハ此書ニオヨブモノナリ
実ニ四書字引ノ大成ナルモノナリ

斥非

春臺先生著 全二冊

此書ハ詩文儒門ノ是非ヲ論ジタル書ナリ

俳諧四季併題櫻田

花屋菴奇淵撰 全二冊

日本紀竟宴歌集

全二冊

虞書新志

唐本翻刻 全八冊

隸續

同 全四冊

西漢晋魏ノ間ノ碑碣石經ノタダヒ其外ノ
鏡鼎類スベテ漢ノ代ノ遺文ヲアツム

五代史

同 全十五冊

潜夫論

同 全五冊

後漢ノ王符著述ニシテソノ時代ノ得失ヲ
ノレル所ナリ又ハテ三十五篇ナリ

和楷正訛

春堂先生著

全一冊

楷書ノ誤ヲ正スニ坐右ニオキテ探索速ナリ

文論詩論

右同著

全二冊

譯文要訣

全一冊

同 附錄

白石簡合刻

全一冊

東郊先生文集

全五冊

茶山集

宋 曾幾著

全四冊

此書ハ南宋陸放翁ノ師茶山曾幾先生ノ詩集武英殿聚珍板ヲ翻刻シ東武栢如亭先生ノ校正ヲクハタル宋詩集ナリ

開口新話

全一冊

批點檀弓

全一冊

西京雜記

全一冊

作文初問

周南先生撰
南郭先生考訂

全一冊

歷世文章ノ風調古人文趣ノ異同ノ論ニ法格ヲ奉テ曉シ易ク又實ニ作文楷梯ノ書也

高士傳

唐本翻刻

全三冊

明詩礎

小木

全一冊

同 續

全一冊

棲碧山人百絶

讀牧庵漢先生著

全一冊

黃葉夕陽村舍詩

管茶山先生著

二編 全四冊

驥嶽日記

全一冊

此書ハ管茶山河崎敬軒両先生ノ東海道紀行應酬ノ詩集ニシテ附スルニ鵬齋茶山両先生東都日本橋上ニテ邂逅ノ詩アリ其外奇事頗多シ

歸省詩囊

北條霞亭先生著

合刻 全一冊

薇山三觀

各々ノ霞亭二稿ト云

嵯峨樵歌

右同著

全一冊

詩學新論

全三冊

近人小詩

栖碧先生

全二冊

管茶山寬齋大窪詩佛池五山栢如亭北條霞亭ノ諸先生ヲハジメ其外名賢詩アマタアリ求メテ四方ノ英傑ヲ知リマフメシ

風牀小詩

備中風牀上人著作
讀政栖碧山人批點

全一冊

刪補象方規矩

北山先生著

全四冊

熊志

熊膽製方真偽明辨圖解

全一冊

腫脹要訣

全一冊

内科撰要

宇田川玄隨先生著

全十八冊

此書ハ和蘭傳來内治方ノ醫書ニシテ和漢古今ノ醫書ニモ載セザル妙論奇方ヲアマタアツメ蘭本數書ヲ翻譯スル所ナリ和蘭ノ醫書ヲマタアトイヘバ多クハ外科ノ書ノミニシテ内治ノ醫書ヲ上梓スル下此書ヲ以テ原始トスベシ實ニ古今未發ノ珍書ナリ此書ニ據テ奇方ヲモトメ療治ヲホドコストキハ如何ナル疾病タリトイヘバ回生起死ノ術ヲホドコスベシ

蘭畹摘芳

仙臺大觀先生著

全三冊

此書ハ和蘭ノ本草ニシテ本邦ニ用フル所ノ藥品草木生類スベテ生真ニテハ得ガタキモノヲ篤クセシサクシ麝香椰棗ノ類種ノメヅニシキ品類ヲ寫生ニ圖ラアラハシ和漢ノ諸説ヲ奉テ明辨レタル書ニシテ醫家物産家ハモトヨリ珍奇好事家画家等ニ載レテ大ニ益アリ本草類書アマタアトイヘバ此書ノゴトキハ真物ヲミルニヒトレキ古今未曾有ノ善本ナリ

金匱妙藥選

全一冊

唐本百八十品ノ内ヨリ速功アル妙薬秘方ヲエラヒ素人ニテモ療治ヲ得ル薬方アマタ出ス

脚氣方論

村菴先生撰

全三冊

凡カフケノ諸症甚多シ鹿工漫ニ治ラシ人命ヲ傷ラシ先生深ク歎キ年来心ヲ用ヒ病原ヲ明ニ見ワケ治驗ヲ速ニ得ルヲ辨ビタル救世ノ書ナリ

蘭科刺血篇

全一冊

醫斷

吉益先生著

全一冊

醫事惑問

右同著

全二冊

此書ハ病疾ニヨリテ醫ヲ求メ服薬スルノ心得的當ノ醫業ヲ知ルコトヲ論シ平假名ニテ弁トシタル人家重宝ノ書ナリ此書ヲ見テ後醫ヲ求ムルトキハスミヤカニ治ヲ得ベシ

物類品隲

全六冊

此書ハ平賀鳩溪先生ノ著述ニシテ草木金石水土穀果虫魚鳥獸等ノ真偽ヲ辨ビ漢土産物寫生ノ圖アリ附録ニ人參培養法砂糖製造ノ図解マデクハシクアラハシ其外物産家ノ骨戀ノ事トヒフアマタセンサクレタル書ニシテ東都諸先生ノ校合実ニ物産ノ書ニオイト是ニナラブモノナリ

易道撥亂

春臺先生著

全一冊

同辨

太宰東郭先生著

全一冊

易占要略

春臺先生著

全一冊

斷易早合点

全二冊

此書ハ諸ノ占法ニ益アルモノヲトリ初心トイヘドモ知リヤスク覺エヨキヤウニ書トリ書物ノモタズシテ周易占考ヲ知ルノ極意ヲシルス

中主文栞

消閑雜記

一時軒惟中隨筆
八日菴萬和宗匠問

全部二冊

此書を隨筆に書かざりしと云ふも、其の作者の好む所
かゝるて諸家に傳へたるにあらず。今此書の諸教連傳文
章經學佛學雜話といふ所、その有益の事説と輯
録し解しが、く知るが如く、其の所をいふ、よむべかりし
して、實に法君の徳性識の名をば、その書にあり

天保四癸巳二月新刻

大阪北久太良町心齋橋南

塩屋忠兵衛

大阪安土町心齋橋角

書肆 河内屋儀輔



工
也

五
十
九



集
子

卷